

## 拒絶理由通知書

特許出願の番号	特願2002-581266
起案日	平成17年10月27日
特許庁審査官	三宅 達 2919 3D00
特許出願人代理人	山下 穰平 様
適用条文	第29条第2項、第36条

この出願は、次の理由によって拒絶をすべきものである。これについて意見があれば、この通知書の発送の日から3か月以内に意見書を提出して下さい。

## 理 由

(1) この出願の下記の請求項に係る発明は、その出願前日本国内又は外国において頒布された下記の刊行物に記載された発明又は電気通信回線を通じて公衆に利用可能となった発明に基いて、その出願前にその発明の属する技術の分野における通常の知識を有する者が容易に発明をすることができたものであるから、特許法第29条第2項の規定により特許を受けることができない。

(2) この出願は、特許請求の範囲の記載が下記の点で、特許法第36条第6項第2号に規定する要件を満たしていない。

記 (引用文献等については引用文献等一覧参照)

## 理由 (1)

- ・請求項 1-51
- ・引用文献 1
- ・備考

引用文献1については、はしけが可撓性織物構造体の水密容器からなる点を参照のこと。また、容器等の端部をシーリングする手段として「ひだ」を形成するようにしたものは従来より一般的に知られているから（例えば、実願昭55-41643号（実開昭56-144785号）のマイクロフィルム（第4図A～E）、特開平8-11981号公報（図4～6）等を参照）、これを引用文献1に記載の水密容器において採用し、本願請求項の如くなすことは当業者にとって容易である。

なお、テープを作製する（織る）方法については、当業者が適宜になし得る事項というべきである。

## 理由 (2)

・請求項1, 6, 7, 17, 23には「前記管状構造物を不浸透性にするための手段であって、前記管状構造物が前端部と後端部とを有する手段と」と記載されているが、「前記管状構造物が前端部と後端部とを有する手段」の意味が不明である。

・請求項1には「前記前端部又は後端部の少なくとも一方は、管状構造物の布の複数の折り目又はひだを含み、前記ひだは両端でシールされ、前記ひだ付近に位置するクランプ手段は前記ひだを固定する位置に保持し、第1円周よりも短い第2円周で定義される前記ひだの両端、前記ひだは前記管状構造物の一部を通じて広がり、また管状構造物の部分のサイズが徐々に増加していく、円錐状又はテーパな端部を形成するような前記両端のひだ、」と記載されているが、それぞれの「両端」とは何を意味するものか分からず不明確である。

(それぞれの「両端」は管状構造物の両端を示すものか、ひだの両端を意味するものか不明確である。)

・請求項2, 7における「前記取付物にひだをつけた両端を密閉した」の意味が不明である。

・請求項5, 16, 22, 28, 40における「そのように形成された」とは何を意味するものか分からず不明確である。

・請求項6には「前記管状構造物は、布の複数の折り目又はひだを含み、前端部から後端部まで拡張し、それは縦方向の軸と本質的に平行であり、前記ひだは前記両端のひだの位置で密閉され、かつ固定する手段を両端に有しており、積荷で前記管状構造物が充填された時は前記ひだの拡大を引き起こし、しかしながら、前記両端のひだの固定は保持される、を備える可撓性流体収容船。」と記載されているが、

- 1) 「それ」の指すものが不明である。
- 2) 「前記両端のひだ」とあるが、「両端のひだ」は前記されていない。
- 3) 「両端」とは何の両端であるか分からず不明確である。
- 4) 「保持される、を備える」の意味が不明である（他の請求項でも同様の記載があり、意味が不明確である（請求項29, 37, 41, 44））。

・請求項13, 14における「折り畳み容易部材」「折り畳みを容易にする部材」とは何のことであるか分からず不明確である。

・請求項17には「前記前端部又は後端部の少なくとも一方は、管状構造物の布の複数の放射状に広がる折り目又は歯を含み、前記折り目は両端にあり、前記両

- ・先行技術文献 実開昭62-68893号公報

この先行技術文献調査結果の記録は、拒絶理由を構成するものではない。

この拒絶理由通知の内容に関する問い合わせ、または面接の希望がありましたら下記までご連絡下さい。

特許審査第二部 運輸 三宅 達

TEL. 03(3581)1101 内線3340

FAX. 03(3580)6904